

令和 6 年 9 月 6 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 10 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
8月	1	31.7	28.8	37.1	33.7	27.6	25.1	4	31	47.5	35.0
	2	31.2	28.7	36.9	33.6	26.3	25.1	0	33	55.9	34.2
	3	30.2	28.5	37.4	33.2	25.4	25.0	1	38	52.1	32.6
	4	30.7	28.1	36.0	32.8	26.6	24.6	24	43	42.3	31.7
	5	30.8	27.6	35.6	32.3	27.4	24.1	27	46	42.8	31.0
	6	28.4	27.0	32.1	31.7	25.6	23.4	113	54	30.0	35.8
9月	1	28.4	26.4	34.0	31.1	24.0	22.8	0	40	48.8	29.2

【8月 27 日～9 月 3 日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 1.3℃高かった。

降 水 量：平年比 149%と多かった。

日照時間：平年比 107%と長かった。

## 2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」で糊熟期～黄熟期となっている。
- ・中晩生品種では「ヒノヒカリ」で乳熟期頃、「さがびより」で穂揃い期頃となっている。「ヒヨクモチ」では出穂前～始めとなっている。
- ・紋枯病やコブノメイガ成虫の発生圃場が散見される

### 3. 情報田生育調査結果（9月5日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）			84.5
平年値（平年比）			—
茎数（本/m <sup>2</sup> ）	出穂期 8/8（-3）	出穂期 9/1（±0）	499
平年値（平年比）			—
葉齢（L）	止葉葉位 13.7	止葉葉位 14.7	16.5（止葉）
平年値（平年差）			—
葉色（SPAD値）			38.5（止葉）
平年値（平年差）			—
<b>概況</b>			
生育 ヒヨクモチは間もなく出穂期を迎える。 ※ヒヨクモチは平年データなし			

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

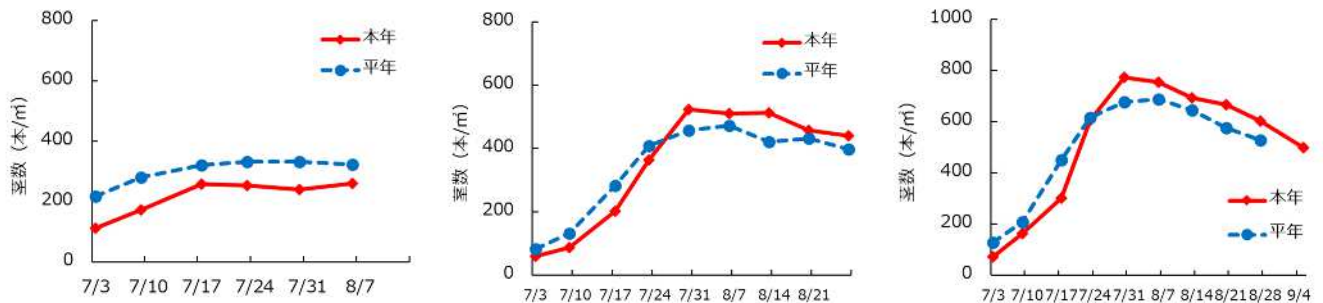


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

(参考) 農業試験研究センター米づくり情報 10号 R6年9月3日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	止葉 葉数	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	8/15	未	13.5	【気象】8月27～9月2日まで ◆平均気温…平年より1.2℃高い (28.0℃) ◆日照時間…やや長い (平年比105%) ◆降水量…多い(平年比169%)  【出穂期】 「さがびより」…1日早い  【止葉葉数】 「夢しずく」…平年並み 「ヒノヒカリ」…平年よりやや多い 「さがびより」…平年よりやや多い 「ヒヨクモチ」…平年よりやや多い
		平年	8/17	9/23	13.4	
		平年比(差)	-2	-	+0.1	
	ヒノ ヒカリ	本年	8/24	未	14.6	
平年		8/27	10/7	14.3		
平年比(差)		-3	-	+0.3		
6月20日	さが びより	本年	8/31	未	15.2	
		平年	9/1	10/13	15.0	
		平年比(差)	-1	-	+0.2	
	ヒヨク モチ	本年	未	未	16.8	
平年		9/5	10/28	16.3		
平年比(差)		-	-	+0.5		
留意点	<p>○「ヒヨクモチ」は、“走り穂”がみられ間もなく出穂期を迎える。</p> <p>○台風10号により8月28日10時に風速10m/sを観測してから翌日29日の16時まで、約30時間続いた。瞬間最大風速は22.4m/sで概ね北東の風であった。降り始めから降り終わりまでの降水量は104.5mmであった。</p> <p>○本作況試験では、各品種とも葉の裂傷は軽微であり、倒伏はみられていない。</p> <p>○品種ごとの播種時期や栽植密度等の耕種概要は前号までを参照。</p>					

#### 4. 普通期水稻の今後の管理について (9月6日～)

##### (1) 水管理

- ・強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。地固めが不十分な圃場は断水期間を長めに取り、徐々に地固めと茎の充実を図る。
- ・充実不足による品質低下の原因となるため、収穫前の落水は7～10日程度とし、早期落水は避ける。

##### (2) 施肥

###### 「ヒヨクモチ」実肥

- ・分施の場合、各地区の栽培暦(表1)を参考に実肥を施用する。

表1. ヒヨクモチの穂肥等基準 (現物量kg/10a)

地区	肥料名	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	実肥
		8/14～16頃 (幼穂形成期)	8/22～26頃 (穂肥Ⅰの10日後)	9/8～10頃 (穂揃期)
JAさが	LPBB804	35～45	—	—
東部	BB602	25	10	10
JAさが	LPBB804	30	—	—
神埼	BB602	25	15	—

### (3) 病虫害防除

- ・9/5 調査では、ウンカ類の幼虫（発生量は少ない）及びコブノメイガの成虫を確認している。
- ・各圃場での発生状況に注意し、収穫前の使用期限を守って適切な防除を行う。

#### ①トビイロウンカ

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。
- ・防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。

※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、圃場毎の発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期。

#### ②コブノメイガ

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおりであるが、県内のトラップ調査では7月中旬以降、断続的に捕獲されており、8月中旬以降の捕獲数は多くなっている。
- ・止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場毎の発生状況を確認し、追加防除を行うなど適期防除に努める。  
防除適期は幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）。

#### ③紋枯れ病

- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。（液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。
- ・管内の圃場でも上位葉への進展がみられている。

#### ④斑点米カメムシ類

- ・出穂後に畦畔除草を行うと、水田内にカメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、今後の畦畔除草は行わない。
- ・乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7～10日後に2回目防除を行う。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

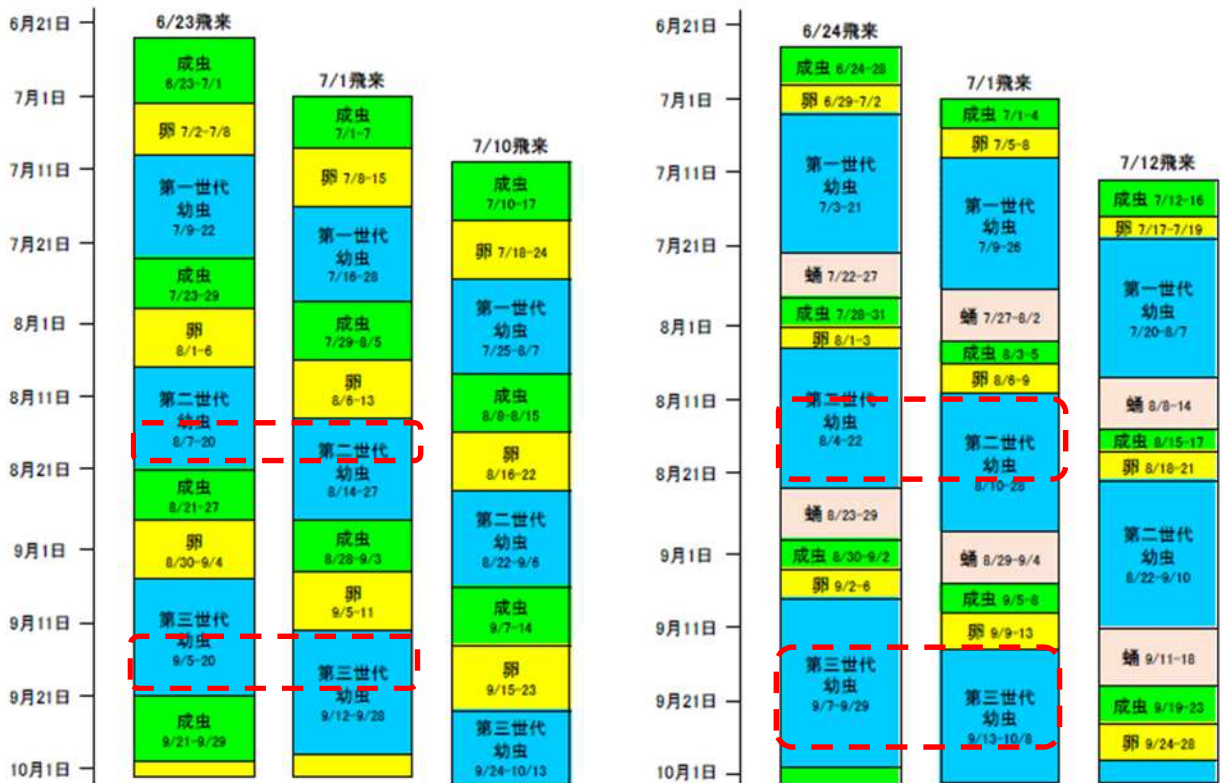



図 各世代の発生予測（左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ）

第2版 2024年7月19日公表

- ・ 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・ 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

## 5. 大豆の今後の管理について

7月上旬に播種された圃場では、莢伸長期始めとなっている。

7月中下旬に播種された圃場で、開花期となっている。

開花期以降は特に水分を必要とするため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

### (1) 今後の天候

- 九州北部地方の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間はほぼ平年並みの見込みとなっている。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 9月6日9時発表)

今日 06日(金)	明日 07日(土)	明後日 08日(日)	09日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)
晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	曇時々晴	曇時々晴
						
-10/20/20	10/10/20/10	20	20	20	30	30

### (2) 干ばつ対策

- 今後も高温・乾燥条件が続くため、コルゲート管を閉栓し、土壌水分確保に努める。

### (3) 雑草防除

- 雑草の発生が多い圃場では、雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤を散布する。
- 除草剤処理においては、使用時期の晩限に注意して使用する。
- イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

### (4) 病虫害防除

- 「病虫害発生予察情報第5号(8/7発表)による主な病虫害の8月下旬予報では、「ハスモンヨトウ」「カメムシ類」ともに多発生の条件となっており、予想発生量は平年比「やや多」となっている。
- 各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

#### ①ハスモンヨトウ

- 管内の一部圃場では白変葉の発生が確認されている。
- 台風10号通過後、圃場では一時的に個体数が減少している。
- 防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体調約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- 防除後約3日経過した後も高い密度で食害が続く場合は再防除が必要。



## ②カメムシ類

- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。
- ・圃場毎に大豆の生育量やカメムシ類の発生状況が異なるため、圃場を確認し、遅れないように防除を実施する。

## ③オオタバコガ・ウワバ類

- ・近年発生が多くみられる。本年はハスモンヨトウと同様に多発生の条件となっている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

# 令和6年産 水稻生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀，データ更新日：9月5日)

三神農業振興センター

